京城日報 夕刊 三月二十七日(日)

わが海軍艦船に危害を加へんとす

威力ある大機雷三百餘密造 廣東派の陰謀暴露す

【上海廿六日發電】支那側は停戦交渉の傍ら我海軍艦船に危害を加へんと兇悪なる陰謀を企てつゝあることが暴露された、即ち廣東派元海軍人金彦山は佛租界大世界附近で六百キロの大機雷三百を造り、これを十九路軍のボート二隻で沈江に送附し別に佛租界青幇の親分黄金榮の勢力地盤内の工場で機雷十八を製作隠匿したことが暴露し、これ等は我艦船に損傷を與へんとするもので日本側はこれが對策を考慮中であるが、漢口我〇〇〇〇艦附近に機雷を仕掛けた一味が十九路軍と廣東派と密接な關係のあることも明かになつた、なほ當時の機雷は二百八十キロのものだつたが、今度のものはその二倍以上の大きさである

停戦會議特別小委員會 主張に大なる開き

わが軍の撤收線問題

【上海廿六日發電】廿六日の我邦の撤收線につき協議し、日本側が蘇州、楊行鎮、羅子橋間、浏山縣の線を主張するに對し、支那は呉淞、上海線すら承認せず、先つ過渡的に呉淞に撤退した後上海租界に入るべく觀望會議まで呉淞に駐兵することは承認出來ぬと主張し、假裁の意見は依然大距離にあつた、なほ支那の現駐地區を大倉崑山、淞江線とし、白川司令官の指定線内に支那兵を入れぬとの假は内定を見た、更に會議觀察後支那側委員は固辞して帰國武官に支那の主張を説明した

馮の嫌がらせ 蔣に不滿で

【南京廿六日發電】蔣主席は目下泰安にあるが、蔣介石の軍部外交に不滿ありとして廿六日國民政府に左の電報を寄せて來た 日本側に對し引續き對抗する外時局打開の策なし、増兵を斷行し滿洲國を討伐して失地を回復すべし

調査委員の南京入りに警戒嚴重を極む

【南京廿七日發電】國聯支那調査員リクトン卿一行の南京入りを迎へんとして廿七日朝の當地の警戒振りは未曾有の嚴重さを見せてゐる、下關には支那要人歓迎委員の外總對に入場を許さず、新聞記者も一行が宿舎に入つてからでなければ面會を許さぬといふ厳戒振りである、一行は翌廿八日に、吉田大使は日本領事館に泊ることになつてゐる

拓殖懇談會 兩院議員を中心に組織

【東京電報】政友會の加藤久米四郎、安藤正純、三山徳弘、菅原傳、上原勇作氏等有志代議士三十餘名は廿六日午後三時東京會館に參集、協議の結果、貴衆兩院議員を中心に各方面の輿論を集めて拓殖懇談會を組織し、我拓殖事業發展につき調査研究をなすことゝなり、特別議員團に總會を開いて意見その他を決するとなつた

選擧に現れた獨逸

獨逸大統領選擧は三月十三日行はれたが寫眞上はベルリン、ポツダメル廣場に掲げられたヒンデンブルグ元帥とヒットラアとの選擧看板で右のヒットラア氏のにけ「アドハフ・ヒットラアだ」と、強くアッピールする所がナチスであり左のヒンデンブルグ元帥保下の『政策定なく人物を選べ』とのスローガンは獨逸がいかに混雑に直面して居るかを示し獨逸の行方を暗示するものとして興味がある、上はヒットラア氏とヒンデンブルグ元帥の立候補に反對して去る三月六日ルストガアルテンに於いて行はれた共和派の大反對示威運動

極東へ兵力增派

各工場は總動員 露國の軍事行動

【モスコー廿六日發電】蘇聯政府は極東に向つて兵力を增派し盛に技術、建築家、通信手、飛行家、醫師等を徴中しつゝあり、又一部行はれてゐる海軍運輸はこの戰備行動を以てソヴエート聯邦がアジアの門戸に軍事的活動が行はれ居る際警察の指導であるといつてゐる

「アジアに歸れ」

恐米、追隨外交から對外政策を強硬に

【東京電報】政府は今後多年なる極東政局に於ける日本の指導的位置を確保すべく東部の露国も徴取し具體的方策について熟慮してゐるが、今後は徒に追隨外交を捨て「アジアに歸れ」のモットーを以て政治外交に徹めんとの主張が政友會にも有力化し、政府もこの大勢に從ひ今後の對外政策をこの原則に立脚せしむることに意見一致し、廣田外相の帰朝に關し政府の決意したのもこの線に沿ひ帝國武官に支

明年度歳入

十三億七、八千萬圓

不足の分は赤字公債

質行豫算は不足の儘で編成か

租稅		七〇〇
印紙收入		六六
官業官有財産收入		四四一
雜收入		二八
特別會計繰入		一六
計	一、二五一	
臨時部		
普通國債		三八
公債金		八六
計	二、三七五	二四

右の內公債金は第六十一議會を通過した國庫債券發行法及び不成立債券に關する法律に定せられた起債公債二千七百四十五萬圓であるが、本年公債は發行せず、本年公債の差額分を繰越する筈、次年度差額の通り（單位千圓）

國債償還		五九、五一九
電話事業		一七、五一〇
震災善後		七、六七〇
道路事業		一〇〇
電信事業		九二五

而して國債償還額は、國債償還後、國債償還を加へ歳入不足分に充ててゐる、下關は支那要人歓迎委員の外總對に入場を許さず、新聞記者も一行が宿舎に入つてからでなければ面會を許さぬといふ厳戒振りである、一行は翌廿八日に、吉田大使は日本領事館に泊ることになつてゐる

不平滿々の森翰長

首相と會見し更に閣公訪問

【東京電報】外交問題から更に今次の內閣改造に關し激論し、遂に辭職を決意した森翰長は廿六日午後九時より約三十分大藤首相と官邸で會見したが、この結果森翰長は廿七、八日頃興津に西園寺公を訪問し、對支問題問題並之に關聯する國際問題に對する芳澤外相の外交方針に關し、自己の所信を披瀝し老公の諒解を求めることゝなつた

辭任は延期 來月上旬まで

【東京電報】森翰長の辭意は國きものあり、西園寺公訪問により心境の變化を來さざる限り辭任は立場問題の問題とされてゐるが、各閣僚の政治問題一般の抵抗は、ほぼ解決の見通しを見ることは難しく、辭任の時期は來月上旬まで延期されるに至つた

江口副總裁 自發的勇退か

【東京電報】政府は減員正調整問題を論じ、東上中の江口副總裁に對しては既にその進退問題につき勧告の意を傳ふるところあり所で江口副總裁の上京後、命令の通達を待つ、なほ江口副總裁の上京後、命令の通達を待つ、なほ江口副總裁及賞金の調達も到底目的達成の可能なりとして、內田總裁に進退問題を一切一任、ボイコット問題の國際會議の議場中に包含せしむべしと主張してゐること

安達氏の復黨運動

【東京電報】民政黨は次期議會に對する對策の一つとして廣く人材を網羅して黨の地位を固めねばならぬとの意見有力となり、殊に安達氏の復黨運動は次第に高まつて來た、即ち、安達氏は既に上京し氏に對する熱情苦しく鎮和され、現在安達氏の復黨を望ふ代議士は百四十五名中九十余名に上つてゐる、この間、肝心の若槻總裁の意向權藤たらざるものあり、一部政治家の間等よりその復黨に支障あつたが、最近安達氏が無條件復黨の上若槻總裁を助けその理生を図る以外に決して他意なきことが一般に諒解されて來た爲め、新次行の支障も除かれんとするが如き形勢になつてゐる、なほ黨外の有力者も復黨賛成の意向がある

停戦會議の形勢觀望

【ジネヴア廿六日發電】聯盟事務局では復旧會議であるに拘らず目下上海に於ける日支衝突の進捗透しやすく、ドラモンド事務局長は何誰にも出かけられず、聯盟の實現は本月の末に至つた

久原幹事長

首相と協議

【東京電報】久原政友會幹事長は二十七日午前九時官邸において若槻首相に對する党の意向を傳へ種々協議を遂げた

閣奉天市長

新任の抱負

【奉天廿六日發電】新任奉天市長阿部敬氏は廿六日發二時奉天内外新聞通信記者三十餘名を市政公所に招き、奉天市政の抱負を披瀝し、國際的の惡政の如く見られてゐた奉天市政當局の惡政を撤除し國際的奉天市たる市政の確立に一中心大奉天市を建設すべく財政公開、職員の減員、市税の正確につき堅確的に施政の抱負を述べるところがあつた

◇假出獄三氏（國學博士）廿六日夫人同伴

◇橋本前文部大臣氏（工學博士）廿七日夫人同伴

進出するには まだ早過ぎる

滿蒙經濟視察の收穫 陣內商議會頭語る

鮮農滿洲進出について

朝鮮特産物の滿洲進出といふことは確に緊急事で、必ず指導をつけて國策的に進めなければならないとは、半島關係者の輿論であるが、何分情勢は極度に悪くなつてゐる、且支那側の實力は尚ほ弱く、特産物の共同販賣所設置等は時期尚早の觀がある、奉天で加藤鮮銀總裁ともも個人的に懇談したが、現狀では何物でも金融力の滿洲進出とは偷薄感を與へるとの意向であつた、ただ支那側の商業者ならば一定の限度で融通しなければならないとの意向を洩らしてゐた

滿鐵解體論が

本日滿鐵委員會で奈天鮮銀から提案された、今回の帰上では各出席の双手を挙げての大賛成を見たとのこと、何等の異議論を見ることが出來なかつた、問題の解決は今後の滿洲經濟界の一大關心事だらうと思ふ

聯盟

第十五條に飽迄執着

陳述書を要請し來り 帝國は斷然拒絶せん

【東京電報】國際聯盟事務總長ドラモンド氏は我が代表に對し日本が第十五條適用に關する我が留保を全然無視し、滿洲問題に對する我邦の陳述書の提出を要請して來たが、之に對し外務當局は聯盟が我が留保を無視し、第十五條適用を要求する限り我が留保を全然無視し、滿洲問題に關し、滿洲問題に關し聯盟理事會に提出する我が陳述書の提出を拒絶する決意であるものと見られてゐる

不参加も已むなし

帝國の對聯盟態度は強硬

【東京電報】ジネヴアの空氣は滿洲問題を通過して其後の推移は日本に不利となり、吉澤代表のみならず滿洲問題に對して規約第十五條を實質的に適用せんとしつゝあり、特に外相も金澤の如き過激的に對する保留條件を附し参加とせんとの意向を示したが、今後は日本の參加は微温的に過ぎるのではないかと思ふ、今度の日本の態度は聯盟に對する不滿を與へたとの意見有力なる振動を振ひ出でる恐れがあるものと見られてゐる

聯盟

第十五條に飽迄執着

陳述書を要請し來り 帝國は斷然拒絶せん

【東京電報】ジネヴアの空氣は滿洲問題を通過して其後の推移は日本に不利となり、吉澤代表のみならず滿洲問題に對して規約第十五條を實質的に適用せんとしつゝあり、特に外相も金澤の如き過激的に對する保留條件を附し参加とせんとの意向を示したが、今後は日本の參加は微温的に過ぎるのではないかと思ふ、今度の日本の態度は聯盟に對する不滿を與へたとの意見有力なる振動を振ひ出でる恐れがあるものと見られてゐる

第十五條に飽迄執着

陳述書を要請し來り 帝國は斷然拒絶せん

不参加も已むなし

帝國の對聯盟態度は強硬

【東京電報】ジネヴアの空氣は滿洲問題を通過して其後の推移は日本に不利となり、吉澤代表のみならず滿洲問題に對して規約第十五條を實質的に適用せんとしつゝあり、特に外相も金澤の如き過激的に對する保留條件を附し参加とせんとの意向を示したが、今後は日本の參加は微温的に過ぎるのではないかと思ふ、今度の日本の態度は聯盟に對する不滿を與へたとの意見有力なる振動を振ひ出でる恐れがあるものと見られてゐる

イースト

健康に捧ぐ

歌島歎すべき「イースト」のこの栄養—この薬効

イーストは其活性成分たる蛋白質、グリコゲーン、脂肪、鐵有機燐、カルシューム等が力強き栄養となり、就中諸種の酵素が胃腸を丈夫に、便通を整へ、消化吸收を旺盛にして虚弱體を強健化す。

病氣に打勝つ
體力を建設し
自己の體力で
病氣を癒す

効主 胃腸カタル、胃アトニー、胃下垂症、胃腸過多症、胸焼、便秘、痔、緑便、結核、便秘、糖尿病、腎臓病、膀胱病、婦人病、産後、産前産後、小兒、虚弱、貧血、神経衰弱、不眠、不食、不消化、不安、不快、不足、不良、不能、不可、不治、不明、不安、不快、不足、不良、不能、不可、不治、不明、不安、不快、不足、不良、不能、不可、不治、不明

大荒れの間島

王德林の主力 百草溝に肉薄す

その勢力五百と稱す

【間島特電】二十三日大荒溝の保衛團が團匪多數の襲撃を受け、更に同地の公安分局を一襲した王德林の主力部隊は二十六日百草溝を過る三里の地點に迫り、目下鄭に密集して放つて百草溝市街の特種の機關を襲撃中であるが、その勢力五百と傳へられこれに備へついた間島の支那軍隊は早くも現場に捜索の網を張にあり、間島の人心恐怖となつてゐる

途中危險の爲 家族引揚困難

【間島特電】八道溝の鮮人分團家族は萬一の場合を慮ひとなる虞れがあるので、二十六日夜間護隊の自動車二臺に分乘せしめ間島まで避難せしめる積合であつたが、その後途中がまた

敵決死隊の兵力

【間島特電】八道溝の我警察分署を襲撃した在滿鮮人の敵決死隊は目下金佛寺に於て同志を糾合中であるがその勢力二百と稱し居るも實數は百名内外であると

五道溝に 五百の匪賊集中

【間島特電】二十六日午後九時資興地からの情報によれば目下鄭吉五道溝附近には約五百の共產軍が集結中

朝鮮人民會燒失

【間島特電】二十一日夜百草溝の朝鮮人民會は現場の襲撃を受け燒却された

悲痛なる防備命令

◇—警官隊の不足

【間島特電】二十六日午後三時頃こゝに接した間島警察部からの報によれば、百草溝北約三里に約八百名の匪賊集結、同時に間子師團の一部が出動の模様を示しつゝあり、同時に間子師團からも九名より鄭吉五道溝附近の警備の爲出動する警官五名を急派と決し、同時に間子師團の一部が出動の模様を示しつゝあり、同時に間子師團からも九名

◇—宇垣總督一行の北漢山登り

殘る恤兵金で 傷兵や遺族救助

二百五十萬圓を 有意義に使ふ計畫

【東京電報】國債ならびに上海方面の軍費に對する全國民の後援はいよ〳〵熱烈となりつゝあるが、二十六日までの恤兵金は二百五十萬圓に達した。陸軍では一部を生業を助成するため戰死、年金制による戰死傷病者ならびに遺族の一部を基金として今回の恩賜金の一部を渡し、傷病者、遺族に恤兵金の配當をなし、傷病者、遺族に恤兵金の配當をなし、傷病者、遺族に恤兵金の配當をなし

地方版

府營病院を總攻撃

昇給慰勞金の增額に反對

木浦府會の大時化

【木浦】府營病院の府費は廿五日から廿六日の二日間の予算審議に入り、廿六日午後一時から開會、水道課長の説明があり、引續き質疑に入り、午後五時半に至り、一旦休憩し、午後七時半から再開し、午後十時半に至り、一旦休憩し、午後十一時半から再開し、午後一時半に至り、一旦休憩し、午後二時から再開し、午後三時半に至り、一旦休憩し、午後四時から再開し、午後五時半に至り、一旦休憩し、午後六時から再開し、午後七時半に至り、一旦休憩し、午後八時から再開し、午後九時半に至り、一旦休憩し、午後十時から再開し、午後十一時半に至り、一旦休憩し、午後一時から再開し、午後二時半に至り、一旦休憩し、午後三時から再開し、午後四時半に至り、一旦休憩し、午後五時から再開し、午後六時半に至り、一旦休憩し、午後七時から再開し、午後八時半に至り、一旦休憩し、午後九時から再開し、午後十時半に至り、一旦休憩し、午後十一時

茂平次兇狀【153】

行友李風　吉井勇選

自身番（五）

用向の公用一切を扱ふ自身番

ぬけて不意に鍵の掛つた裏人を掛けられるなどといふまぬ、お[illegible]。

「ソーム、そ、遠慮に遠ひありません。」

「ムーム、それやあマア何とも困りましたねえ、裏はその、町内に少々取込みがございまして毎日寄合を開けて居りますので、成らう悪い田町の番屋の方へ開ひたい物でございますが？」

「所が旦那のお掛屋なんでさ、ナニお手間は取らしません、鍵はちょっとだけ早々拝にして大番屋へ送つてしまひますから、お[illegible]申します。」

「ところでと、お町方ですかい、それとも御加役さんかね？」

「お町だよ！」

町地方の[illegible]下と[illegible]名乗られては、もう二の足お踏みません、[illegible]捕めば後日の祟り、どんな悪し

お[illegible]ます』

ッ！お町方、あい左様で、ハイハイ承知をいたしました、只今直ぐにお開け申します。」

手早く鍵刺を片附けると、何喰ぬ顔に懸金を外して戸を開けると、番人と手先の三人とが、身分柄だけに双方から、打解け合つた[illegible]さ。

『のう若い衆、最近若い者やビキビした宜い[illegible]分だが、あれは一体何處の何といふ御用聞さんなんだ（？）』

『本所の[illegible]だよ』

『[illegible]ろしく頼方だなア？』

『[illegible]屋の常五郎と いつて宜い顔だ』

『[illegible]だらうとも、道理で一向この界隈ぢゃア見掛けねえと思つたが、併し大した[illegible][illegible]の土地で見て御案内お願まるやうになれば金消附き[illegible]なア、サア[illegible]、お茶が入つたよ、一杯お[illegible]』

それでも[illegible]々しく、[illegible]から、[illegible]を引寄せて。

『ぢやア何だ、旦那がお見[illegible]なるまでに、人別帳を済ませて置くとしよう、オイ〳〵、お客人、島[illegible]ねるが、オイ〳〵、お客人、島[illegible]正直に云つて見ておくれ、さぞの自身に[illegible]かつたといふ[illegible]の書き上げになるのだから、嘘は困るよ、生れは何處だい？』

[illegible]なめ〳〵問ひ掛けるが、[illegible]右衛門はセラ笑つて、ウアとも[illegible]スッと口を開りません十。

『[illegible]』

『[illegible]』

『[illegible]』